

《参考 1》

ゲストスピーカーからの提言

広い見地からの審議を行うため、ゲストスピーカーを招聘しました。
その主な内容は次のとおりです。

(1) テーマ：学力の向上

■ゲストスピーカー：北陸大学未来創造学部 石原 多賀子 教授

■主な内容

- 1 学力向上は、基本的に学校自身が目の前の子どものためにどうするか取り組まなければならないが、抽象論では動くはずがない。そこで、国の学力テストの結果を学校自身も分析し、具体的対応策を作成して、実行してもらっている。
- 2 学校からの情報の共有によって、家庭や地域が「当事者意識」を持ってもらえるようになると、学校を支えていく大きな力となり、学力向上の土台となる。この土台を大人が作っていく勇気を持つことが必要である。
- 3 家庭・地域・学校のそれぞれが果たすべき役割と責任が、必ずしも明らかでない。地域の実情を踏まえた上で、情報の共有化を図り、それぞれの役割と責任を明確にした連携体制が必要である。
- 4 県教育委員会は、効果をあげている取組を普及・啓発し、施策による誘導を図っていく役割を果たすことができる。

(2) テーマ：キャリア教育の充実

■ゲストスピーカー：東海旅客鉄道株式会社 須田 寛 相談役

■主な内容

1 産業界として、教育について期待したいこと

- (1) 基礎教育の充実が重要である。語学力の欠如は、企業の国際競争力の低下を招く。
- (2) 先端技術の受容と発展させる能力の育成が必要である。教職員が、近代的で、先端的な技術の背景にある理念を学び、応用を効かせられるような教育をすることが必要である。
- (3) 人間教育、心の教育の充実が必要である。また、教育界が教育システムを社会全体で作り上げる「指導役」を果たすことが必要である。

2 キャリア教育について重要と思われること

(1) 期待する教育内容

- ・早期からの社会観の育成が重要である。子どもの頃から「群れ」をなすことにより、自然に人と組織の在り方、社会と人間の在り方、いわゆる「社会の中の人間」について体得することができる。
- ・早期から、家庭、地域及び企業が連携して、情報教育を実施することが国際競争の中での生き残りにもつながる。(情報教育で養成する能力＝情報の判別力、良い情報と悪い情報の識別力、情報の使い方、まとめて発表する能力、報告・記録の能力、IT技術への対応能力)
- ・キャリア教育を充実するためには、教育課程のあり方の検討も必要ではないだろうか。早期に個人の特色を引き出し、将来の進路を決められる材料を提供し、その能力を育成できる複線型の教育のシステムが必要と考える。

(2) キャリア教育の進め方

- ・学校と企業の連携が非常に大事であるが、現状は、企業と学校との間に、コミュニケーションと、フィードバックしてやっていくということが欠けている。
- ・縦(小学校・中学校・高等学校・大学)の連携と、横(教育と地域)の連携がシームレス(つなぎ目無し)に円滑につながれて、初めて教育というものは、一貫して大きな効果を上げる。社会の教育システムというものを家庭と学校と企業と地域とで、作りあげていくということが大事である。

(3) テーマ：郷土教育の推進

■ゲストスピーカー：株式会社交通新聞社第1出版事業部

中村 直美 部長

■主な内容

- 1 三重県は南北に長く、古くは4つの国(伊勢・志摩・伊賀・紀伊)からなり、地域が違くと全く違う文化を有していることから、遠くへ行かずとも近場で異文化体験・交流ができる。
- 2 特に小学生の時期に色々なものを見て、聞いて、動いて体験することが、将来に向けて効果的であり、重点的に体験を通した郷土

教育を行うべきである。

- 3 教材「三重の文化」は、たとえば県広報への抜粋掲載や、小学生向けにリライトするなどの工夫によって、より上手く活用が図れるのではないか。
- 4 「美し国かるた(仮称)」は、すぐ完成形を目指すよりも、子どもたちの反応等も見ながら、長く県全体に浸透していくものを制作すべきではないか。
- 5 方言は、時を経てまちの風景が変わっても、覚えていて意味が分かる「その土地らしさ」を感じられる素敵なものであり、文化教育の中に取り入れると良い。

具体的方策の取組主体一覧表

具体的方策の取組主体一覧表

具体的方策	主な取組主体									
	県教育委員会	市町等教育委員会	高等学校	特別支援学校	小学校・中学校	保護者	地域（NPO、福祉施設、幼稚園、保育所含む）	国機関	産業界（商工会議所等含む）	
(1) 学力の向上										
① 学力向上に向けた学校の組織的な取組										
i) 学力向上に向けた指導体制の確立										
A 市町等教育委員会による全国学力・学習状況調査の実施・活用の支援	○	○			○					
B 学力向上に向けた実践推進校の指定と支援	○	○			○					
C 学力向上のための取組成果の普及・啓発の推進	○	○			○					
ii) 家庭・地域など多様な主体が連携した県民総参加の取組										
D 学校、家庭、地域が一体となって子どもたちの学びを支える取組の推進	○	○	○	○	○	○	○			
iii) 子どもたちの安心した学びを支える基盤づくりの推進										
E 校内のチーム支援体制の充実	○	○	○	○	○					
F 中学校区を一体に支援するスクールカウンセラーの配置の推進	○	○			○					
G 臨床心理相談専門員による教育相談の実施の推進	○	○	○	○	○					
H 学びを引き継ぐための学校体制と、校種間・関係機関の連携の推進	○	○	○	○	○	○	○			
I 学校を核とした地域ネットワークの構築	○	○	○	○	○	○	○			
② 教員の指導力の向上										
J 相互に学び合う「授業実践研修」の実施	○		○	○	○					
K 教職員一人ひとりの課題解決のための支援	○		○	○	○					
L 授業研究担当者の育成	○		○	○	○					
M 教育課題に対応する指導力の向上	○		○	○	○					
③ 少人数教育の推進										
N きめ細やかで質の高い教育の実現	○	○			○					
O 学力向上に向けた実践推進校の指定と支援 〔再掲〕	○	○			○					
P 学校、家庭、地域が一体となって子どもたちの学びを支える取組の推進 〔再掲〕	○	○	○	○	○	○	○			

具体的方策の取組主体一覧表

具体的方策 主な取組主体	県教育委員会	市町等教育委員会	高等学校	特別支援学校	小学校・中学校	保護者	地域（NPO、福祉施設、幼稚園、保育所含む）	国機関	産業界（商工会議所等含む）
《キャリア教育の充実》									
① 教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育の推進									
A 全県立高校におけるインターンシップの実施と充実	○		○				○		○
B キャリア教育モデルプログラムの開発と各高校のカリキュラムへの反映・普及	○		○						
C 全ての学校における組織的・系統的なキャリア教育プログラムの策定	○	○	○		○				
D 各学校のキャリア教育実施内容の充実支援	○	○	○		○		○		
E 児童生徒が様々な仕事を知るため企業展等へ参加することを支援	○	○	○		○	○			○
F 全ての高校（普通科、総合学科、専門学科）における職業教育の充実	○		○				○		○
G 特別支援学校におけるキャリア教育の充実	○			○					○
H 重度の障がいを持つ生徒向けの福祉施設利用型デュアルシステムの試行	○			○			○		
② 適切な就職支援									
I 「就職支援相談員」の配置	○		○						
J 就職情報交換会、合同就職面接会の開催	○		○					○	○
K 児童生徒が様々な仕事を知るため企業展等へ参加することを支援〔再掲〕	○	○	○		○	○			○
L 各高校の就職指導プロセスの改善	○		○						
M 特別支援学校高等部卒業者への就職支援の充実	○			○					○

具体的方策の取組主体一覧表

具体的方策 主な取組主体	県教育委員会	市町等教育委員会	高等学校	特別支援学校	小学校・中学校	保護者	地域（NPO、福祉施設、幼稚園、保育所を含む）	国機関	産業界（商工会議所等含む）
③ 地域と共に創る学校づくりの視点からのキャリア教育のあり方									
N キャリア教育推進地域連携会議の開催	○		○						○
O 全県立高校におけるインターンシップの実施と充実〔再掲〕	○		○				○		○
P 「三重県版ようこそ先輩」と「仕事密着体験」の実施	○	○	○		○		○		○
Q キャリア教育モデルプログラムの開発と各高校のカリキュラムへの反映・普及〔再掲〕	○		○						
R 特別支援学校と企業等の連携の強化	○			○				○	○
④ 教員の指導力の向上に向けた取組									
S 教員が企業の人材育成や経営の実際に触れる機会の創出	○		○						○
T キャリア教育実践交流会の開催	○	○	○		○				
U キャリア教育研修会の開催	○	○	○		○				
V 全ての学校における組織的・系統的なキャリア教育プログラムの策定〔再掲〕	○	○	○		○				
W 各高校の就職指導プロセスの改善〔再掲〕	○		○						
X 特別支援学校教員の職場実習の実施	○			○					○

具体的方策の取組主体一覧表

具体的方策	主な取組主体	県教育委員会	市町等教育委員会	高等学校	特別支援学校	小学校・中学校	保護者	地域（NPO、福祉施設、幼稚園、保育所含む）	国機関	産業界（商工会議所等含む）
《郷土教育の推進》										
① 子どもたちの発達段階に応じた、学校における郷土教育の推進										
A 関係主体と連携した、子どもたちの体験活動の推進		○	○	○	○	○	○	○		
B 学校教育におけるカリキュラム化（位置づけの明確化）				○	○	○				
② 地域資源や人材の活用										
C 文化財等の地域資源を活用ベースとした取組の推進		○	○					○		
D 人材の育成・確保や推進体制づくり		○	○					○		
③ 教材コンテンツや情報発信										
E 教材「三重の文化」の、より効果的な活用		○	○	○	○	○		○		
F 効果的な活用を見すえた、教材「美し国かるた（仮称）制作」		○	○	○	○	○		○		
G 効果的な情報発信の検討と推進		○	○					○		

具体的方策の取組主体一覧表

具体的方策	県教育委員会	市町等教育委員会	高等学校	特別支援学校	小学校・中学校	保護者	地域（NPO、福祉施設、幼稚園、保育所含む）	国機関	産業界（商工会議所等含む）
《地域と共に創る学校づくり》※各テーマの取組からの再掲									
① 学力の向上									
D 学校、家庭、地域が一体となって子どもたちの学びを支える取組の推進	○	○	○	○	○	○	○		
I 学校を核とした地域ネットワークの構築	○	○	○	○	○	○	○		
② キャリア教育の充実									
A 全県立高校におけるインターンシップの実施と充実	○		○				○		○
N キャリア教育推進地域連携会議の開催	○		○						○
P 「三重県版ようこそ先輩」と「仕事密着体験」の実施	○	○	○		○		○		○
Q キャリア教育モデルプログラムの開発と各高校のカリキュラムへの反映・普及〔再掲〕	○		○						
R 特別支援学校と企業等の連携の強化	○			○				○	○
③ 郷土教育の推進									
B 学校教育におけるカリキュラム化（位置づけの明確化）			○	○	○				
C 文化財等の地域資源を活用ベースとした取組の推進	○	○					○		
D 人材の育成・確保や推進体制づくり	○	○					○		
G 効果的な情報発信の検討と推進	○	○					○		